

平成28年度 第2回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

平成28年9月7日(水) 13時15分～15時15分

2 開催場所

名古屋事務所 展示室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 昨年より入荷量が少ない。7月末から8月にかけて雨が多く白傷みが多かった。ヒノキの材価が下がっている。韓国向けの輸出も円高で厳しい。
- ・ 供給調整の必要はないが、生産請負の契約がスムーズでなかったため国有林の出材が半月ほど遅れてる。ヘリが少なかったのも要因。(まとめて出材がない。)4月、5月については材確保は厳しかった。
- ・ 短期的には逸脱した動きは少ないが、長期的にみると価格は下がってきており逸脱していると言える。これだけ価格が下がると民材はでてこなくなる。もっと長期的にみる必要がある。
- ・ 春先は材が少なかったが、今は国有林材等によりなんとか供給量を保っている。民材は少なめ。価格の面もあるが安定的に供給することが必要。
- ・ 大手の価格が市場の価格になっている。その反面、大きな受け皿であり、価格を担保している一面もある。大手に合わせざるおえないのが実情。搬出コストはここ10年で4割くらい下がっているが追いつかない。
- ・ ほとんど大壁工法になり、真壁工法が少なくなったことによりムク材が使われなくなった。真壁工法を普及するような取組みをお願いしたい。木材利用ポイントの再開や住宅部材の国産材と外材の差額を補助するような仕組みはどうか。
- ・ 外材と戦っているだけではダメ。大手も必要だが、地域で森林も含めて正当な価格をつくっていくことが必要。ムク材の普及には市場の整備も不可欠。